



三池高校だより



福岡県立三池高等学校
令和4年5月11日 第1号発行

○第七十七回入学式 4月7日(木)、三池高校第七十七回生201名が入学しました。



新入生宣誓 1組 内藤 有里(橘中)

高い志を持ち、
自らの成長を実感しながら、
高校生活を伸び伸びと！



西方 倫明 校長

入学式式辞より(一部抜粋)

新入生のみなさん、御入学おめでとうございます。三池高校第七十七回生となられましたみなさんの入学を心から歓迎します。

さて、本校が位置するこの小高い丘を、櫛(くぬぎ)ヶ丘と言います。古く「日本書紀」によれば、「櫛ヶ丘」に巨大なくぬぎがあり、その影が朝日には雲仙に映え、夕日には大阿蘇を覆ったといわれています。このくぬぎのように、人々に仰がれるような天下第一級のすぐれた人物になってほしいという建学の精神が今も受け継がれており、本校の徽章にも櫛の葉があしらわれています。本校には、先輩方によって築かれてきた文武両道の伝統と自由闊達な校風があります。第七十七回生の皆さんが本校のよき伝統と校風のもとで仲間とともに励み支え合い充実した三年間を送ってくれることを期待しています。

本校の校訓は、「進取 至誠 自治」です。「進取」とは、自ら進んで求める道に果敢に挑むということ、「至誠」とは、真心を尽くすということ、「自治」は自らを治めるということです。

まだまだ続くコロナ禍、目まぐるしく変わる世界情勢の中でも、自分を見失わず未来を切り開く強さと、どんなときにも人を思いやることのできるやさしさを高校三年間で身に付けてほしいと思います。

○春季宿泊研修

4月13日(水)～4月15日(金)の3日間、長崎県諫早市の国立諫早青少年自然の家にて、1年生の宿泊研修が行われました。三高生として、探究的な学習の基礎・基本を習得すること、集団生活における仲間との協働的な学びをとおして、自己有用感を高めること、そして感染防止に留意した集団活動により、相互に協力することの大切さを学ぶことを目的としています。この研修を通して、新入生が三高生としてあるべき姿に大きく一歩近づきました。その活動の様子をご紹介します。



入所式生徒代表挨拶 1組 原口 和也(白光中)



退所式生徒代表謝辞 3組 中村 美沙季(白光中)

春季宿泊研修「活動の様子」



団長訓話



集団行動の練習



食事の様子



レクリエーション



校歌の練習

春季宿泊研修を終えて

自立と協働を学ぶ体験活動を終えた1年生の、三高生としての今後の決意、思い出(短歌)、感想を紹介します。

決意文

私は高校生活で物事を客観的な視点でとらえ、自分の考えを柔軟なものにできるように努力したい。なぜなら、今回の宿泊研修では高校生として自分達で考えて行動する場面が多くあったからだ。班員やクラスメイトに相談し合う中で、私は一つの考えにこだわってしまい、その他の意見にたどりつくことができないという短所を再認識させられた。この経験を生かし、高校生活では一つの考えにとらわれず、他の人はどう考えるのかや、もっと改善できる点はないのかを見つけられる客観的な視点と柔軟な発想力を身につけることを決意する。

1組 伊集院 朱里(田隈中)

感想文

(抜粋)

私は正直、一、二日で校歌を覚えるなんて無理だ、と思いました。4番まであり、なんにせよ意味の知らない難しい単語ばかり、あげくには二日目に校歌コンテストがあるというのです。先生にたくさん怒られ、私たち一同神経をとがらせ、この3日間を過ごしました。ですが、二日目のオリエンテーションでは、先生方が企画して下さった楽しい行事に全員競争心むき出しで楽しむことが出来ました。校歌コンクールでは、全クラスが優勝を目指し、前日から部屋に戻っては、あき時間や自由時間に校歌の歌詞とにらめっこしていました。指導して下さい先生方に、三高生としての自覚が生まれたことや、やれば出来るところを見てほしくて、まだ出会って日が浅いクラス、学年の“仲間”と頑張りました。とてもきつい研修でしたが、自分は無理だと思っても、仲間や強い意志で何でも乗り越えられると思いました。誰かの名言であるように無理と最初からきめつけるのではなく、自分に対し「無理」ではなく「難しい」ととらえて挑戦していこうと思います。

4組 岩下 咲凜 (歴木中)

短歌



解団式生徒代表謝辞 5組 森田 真悠(橘中)



決意文発表 2組 中野 結衣(宅峰中)

すべきこと 達成すれば 成長し 頑張ることの 力感じる	一組 野田 美香里(甘木中)
春の風 僕らの校歌 運びゆく 諫早の地に 響き渡るかな	二組 大重 佑真(高田中)
長縄で 息が揃わず 三回で 女子に謝る 土下座は揃う	三組 中野 陽彩(橘中)
三日間 思い出詰まった 春研修 三高健児の 自覚持つ	四組 石橋 功成(三橋中)
ドキドキと 不安の気持ち 胸にあり だが最終日 絆深まる	五組 佐賀 優海(田隈中)